

学校名	傍陽小学校		
ホームページURL	児童・生徒数 188名		
(1) テーマ お米を使った料理を作ろう テーマの分類() 下記の欄外記載事項を参照してください。		(2) 活動の単位に○をつけてください 学級・同一学年・3～4年 5～6年・学校・ その他() 該当学年 5 年 (回答可能な場合)	
(3) 活動のねらい 自分達の田で米づくりを行い収穫を終えた子どもたちは、田植えや稲刈りなどを教えてくれた方々に対する感謝の気持ちを、米を使った料理を食べてもらうことで表そうと考えた。料理をすることで、料理のレシピの理解、自主的な調査活動、食べてもらう方の気持ちの理解、お米パーティーの企画・運営力がつくことを願った。			
(4) 活動の実際(活動内容、学習方法、学習形態、学習環境等) 収穫した米を食べて感想・疑問を出し合い、この米をどうするか話し合う。＜一斉＞ お世話になった方々や全校にもち米を使った料理を作って感謝しよう。＜一斉＞ どんな料理にしたらいいか、インターネットなどで調べて話し合う。＜グループ＞ 1回ためしに料理を作って、美味しいかどうか確かめよう。＜グループ＞ パーティーをして、感謝の気持ちを表そう。＜グループ・一斉＞ 今までの学習を振り返り、新しい疑問について調べよう。＜一斉・個人＞ 時数(19)			
(5) 指導体制(校内体制、地域人材の活用、安全面での配慮等) ○T・T(1名)担任(1名)地域の人材(1名) ○レンジやガスコンロを使うので、特に火傷のないように配慮した。			
(6) 指導上の留意点(時間数の取り扱い、各教科との連携、家庭・地域との連携等) ○料理の材料の量の算出の場面では、分数の掛け算が未習なので少数の掛け算を使って求めるよう指導した。 ○感謝の気持ちを表すという一本の意識が単元を通して流れるようにした。 ○料理の指導をしていただける地域の方をお呼びしてた。 ○T・Tとし専科に1名入っていただき、打ち合わせを十分行っのぞんだ。			
(7) 評価(基本的な考え方、評価の内容及び方法、評価の実際) ○生きる力を本校なりに決めだし、そこからつきたい力を導きだし、その点について、授業中の様子、つぶやき、感想等から評価している。			
(8) 成果と課題 ○精通している方からの聞き取り、インターネットを利用するなど、追究の方法が確かになりつつある。また、それらの活動を通して、柔軟に対処できる力もついてきている。しかし、T・Tや外部講師との共働の仕方、評価の方法が課題として残っている。			

テーマの分類 横断的・総合的な課題(ーア 国際理解 ーイ 情報 ーウ 環境
 ーエ 福祉・健康 ーオ その他) 児童生徒の興味・関心に基づく課題 地域や学校の特色に応じた課題